

諫早湾干拓事業による防災効果（令和3年8月豪雨）

令和3年9月

○諫早湾干拓調整池の水位を標高マイナス1.0メートルで低く管理することで、大雨時でも標高の低い背後地の雨水がスムーズに調整池に流れ込み、湛水被害を防止。

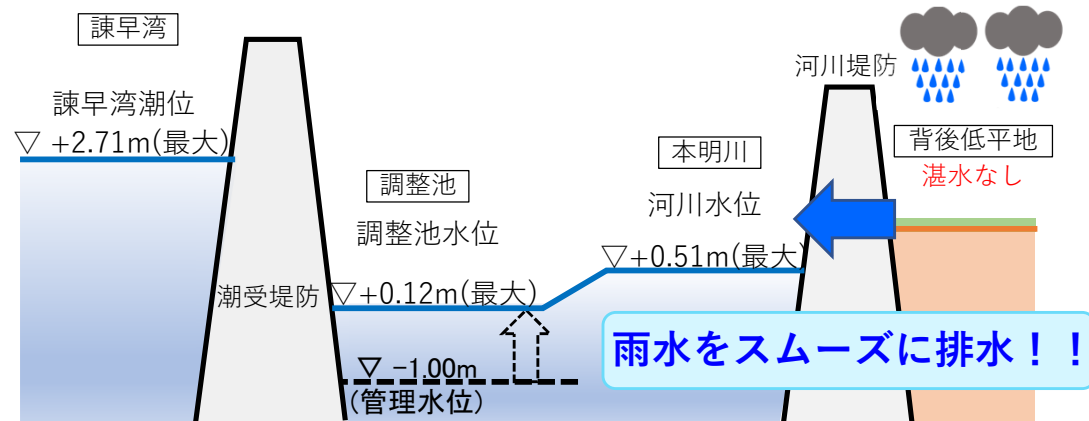
○令和3年8月の大雨でも、現時点で調整池周辺で大きな被害発生は確認されておらず、調整池の防災機能を発揮。



締切り前（昭和56年6月30日）



締切り後（令和3年8月11～14日）



※雨量データは気象庁アメダス諫早地点（昭和51～）、諫早湾潮位は気象庁大浦地点の実測潮位（R3は速報値）、河川水位は国土交通省不知火地点、写真は撮影方向が異なる（S56は南側を望む、R3は東側を望む）